

委員長あいさつ

執行委員長  
有田 洋明



府職労の運動に確信を持ち、組合員の拡大で「大阪都構想」ストップ、諸要求実現に奮闘しよう

橋下「維新」府政が誕生して6年になるとうして、これまで府職労は「住民のためにいい仕事をしたい」という立場で運動をすすめてきました。しかし、橋下知事、むしろ真っ向からたたかってきました。この間の皆さんの職場からの奮闘にあらためてお礼を申し上げます。

事誕生以降、財政危機を理由に賃金削減が横行され、トップダウンによる職場運営が押しすすめられてきました。府職労は橋下・松井府政の攻撃に對して一切の妥協を許さず、むしろ真っ向からたたかってきました。この間の皆さんの職場からの奮闘にあらためてお礼を申し上げます。

代議員の発言

目に見える身近な分会活動を大切に



小西代議員 (総務農林支部)

昨年の夏、節電を理由とした昼休み時間の消灯に対し、職員の声を聞くために分会でアンケートを実施し、職員の声をまとめて所属長に申し入れを行い、一部の要求を前進させた。現在、業務をすすめるうえで職員個人の携帯電話などを使わせるを得ないこともあるが、分会では業務に必要な携帯電話をきちんと支給させるよう求めている。全庁

府民のいのち・安全を守る業務にふさ

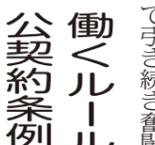
府議会が公衛研の独法化関連法案が上程された。職員の理解も得ておらず、労使慣行を無視する暴挙である。



田口代議員 (健康福祉支部)

府民の安全・安心を切り捨てる公衛研の独法化反対

時とすると説明し、圧倒的な職員の声や職場実態を無視して強行した。今回の改悪は職員の働く意欲を奪うばかりか、府民の安全をも軽視した誤った経費削減施策である。今後も職場実態と府民のいのち・安全を守る業務にふさわしい手当支給を強く要求していく。



高代議員 (府税支部)

働くルールの確立、公契約条例の制定を

は、これまでの委託先職員に賃下げを前提に移籍を要請し、委託先職員は賃下げになる仕組みだ。問題の根底には労働者派遣法がある。支部は働くルールの確立と公契約条例の制定、全労働者の賃金底上げに全力をあげる。



この間中之島図書館の廃止をめぐっては「明日の中之島図書館を考える会」のみならず先頭に立って全国的なたたかいを展開した結果、一転してリニューアル・存続

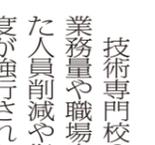
一層強めていく必要があり、賃金確定闘争の問題では、私たちの運動によって、私たちの要求が「あたりまえの要求」であることを当局に認めさせ、進ませましょう。

自治研分科会で生産者と意見交換



藤原代議員 (総務農林支部)

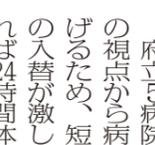
12月7日、府職労・市労は、これまでの委託先職員に賃下げを前提に移籍を要請し、委託先職員は賃下げになる仕組みだ。問題の根底には労働者派遣法がある。支部は働くルールの確立と公契約条例の制定、全労働者の賃金底上げに全力をあげる。



不死原代議員 (土木現場支部)

川から見て府民の安全を考える

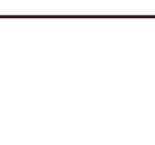
技術専門校の職場では、業務量や職場実態を無視した人員削減や指定管理者制度が横行された。指導員職員の配置基準も見直され、指導員が削減された。指定管理者制度も導入され、夕陽丘技術専校が民間事業者の運用を委ねられている。賃上げ実現を促している。賃上げ実現を促している。賃上げ実現を促している。



井上代議員 (商工労働支部)

職業訓練行政に責任を果たせ

府立5病院は、採算重視の視点から病床稼働率を上げるため、短期入院で患者の入替が激しく、空床があれば24時間体制で緊急入院も受け入れ、スタッフは慣れない疾患・治療に戸惑いながら対応している。ストレスのかかる勤務が続く職



遠山代議員 (急性期総合医療センター支部)

組合員拡大で働きやすい病院職場をつくる

組合員拡大で働きやすい病院職場をつくる。組合員拡大で働きやすい病院職場をつくる。組合員拡大で働きやすい病院職場をつくる。

来賓



日本共産党 清水ただしさん



府職労退職者会会長 笹江 昭雄さん



大阪自治労連副執行委員長 前田 博史さん



全大阪生活と健康を守る会連合会会長 大口耕吉郎さん

大会役員のみなさんご苦労さまでした



議長 有田さん(教委)<右> 徳利さん(呼吸器C)<左>



議事運営委員長 吉村さん(健福)



資格審査委員長 藤江さん(府税)

せるよう求めている。全庁的な問題でもあるので、ぜひ本部としても取り組んでいただきたい。今後も、目に見える身近な分會活動から組合活動を頑張っていきたい。

### 母子保健活動推進に必要な人員確保を



坂部代議員 (保健所支部)

今年4月、母子保健法改正に伴い未熟児への支援は

### をこる事務にこわしい手当支給を



林代議員 (土木現場支部)

水防業務は風水害から府民を守る業務として、水防が発令され勤務命令を受ければ、そこから時間外勤務が発生していた。しかし、昨年5月に都市整備部当局は、管理運営事項として、災害・水防業務時における時間外手当を見直し、時間外手当の発生は事務所到着

### 健康に働き続けられる職場を実現しよう



谷沢代議員 (成人病センター支部)

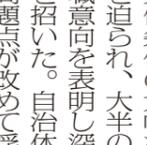
4月に赴任した病院長による「経営ゼミ」なるもの



使慣行を無視する暴挙である。府市統合も決まってい

今年7月に大阪自動車税事務所分室の委託業者が交代し、これまで業務を支えてきた委託先職員は賃金・労働条件の大幅な切り下げを迫られ、大半の職員が退職意向を表明し深刻な事態を招いた。自治体市場化の問題点が改めて浮き彫りになった。業務委託の落札金額が下がり続け予定価格の半額まで落ちている。委託業務の多くを大手派遣会社が独占する形で、派遣会社は自前で業務のノウハウを有する職員を確保するので

### 中之島図書館を守るたかい通じて組合員拡大



高(府) 戸代議員 (教委支部)

昨年6月、橋下大阪市長は中之島図書館の廃止を打ち出した。図書館利用者ははじめ、図書館問題協議会や全国書店組合など、多くの識者・住民から反対の声があがり、中之島図書館の

### 独法化後も勤務条件向上のため奮闘



渡辺代議員 (産業技術総合研究所)

産業技術総合研究所は2012年4月に環境農林水産総合研究所とともに非公務員型の地方独立行政法人に移した。同じ府立の公設試験研究機関の公衆衛生

12月7日、府職労・市労組合自治研の分野別集會として「食と農を考える集會」を岸和田市の「愛彩ランド」で開催した。3年前にオープンした道の駅で、泉州野菜や果物・米や加工品などを利用したビュッフェが特徴のレストランとなっている。ここで食事し地元JJA(農協)の方の話を聞き、意見交換を行った。レストランで働く人の大半は地元的女性で、みんな楽しくいきいきと笑顔でやりがいをもって仕事をしているとのこと。 国政ではTPP交渉も進

### 住民との共同を広げる地区評活動強化を



三村代議員 (地区評(泉南))

岸和田市長選挙では「民主市政の会」が支持した信貴よしのりさんが当選した。信貴さんは元々保守の人であったが、市民と一緒に運動をすすめる中で、市民要求と一致する政策を打ち出した。一点共通とは、

12月7日、府職労・市労組合自治研の分野別集會として「食と農を考える集會」を岸和田市の「愛彩ランド」で開催した。3年前にオープンした道の駅で、泉州野菜や果物・米や加工品などを利用したビュッフェが特徴のレストランとなっている。ここで食事し地元JJA(農協)の方の話を聞き、意見交換を行った。レストランで働く人の大半は地元的女性で、みんな楽しくいきいきと笑顔でやりがいをもって仕事をしているとのこと。 国政ではTPP交渉も進

### 母性保護の権利を根づかせよう



藤本代議員 (女性部)

相対評価が本格実施され、相対評価の単位が部局

12月7日、府職労・市労組合自治研の分野別集會として「食と農を考える集會」を岸和田市の「愛彩ランド」で開催した。3年前にオープンした道の駅で、泉州野菜や果物・米や加工品などを利用したビュッフェが特徴のレストランとなっている。ここで食事し地元JJA(農協)の方の話を聞き、意見交換を行った。レストランで働く人の大半は地元的女性で、みんな楽しくいきいきと笑顔でやりがいをもって仕事をしているとのこと。 国政ではTPP交渉も進

12月7日、府職労・市労組合自治研の分野別集會として「食と農を考える集會」を岸和田市の「愛彩ランド」で開催した。3年前にオープンした道の駅で、泉州野菜や果物・米や加工品などを利用したビュッフェが特徴のレストランとなっている。ここで食事し地元JJA(農協)の方の話を聞き、意見交換を行った。レストランで働く人の大半は地元的女性で、みんな楽しくいきいきと笑顔でやりがいをもって仕事をしているとのこと。 国政ではTPP交渉も進

12月7日、府職労・市労組合自治研の分野別集會として「食と農を考える集會」を岸和田市の「愛彩ランド」で開催した。3年前にオープンした道の駅で、泉州野菜や果物・米や加工品などを利用したビュッフェが特徴のレストランとなっている。ここで食事し地元JJA(農協)の方の話を聞き、意見交換を行った。レストランで働く人の大半は地元的女性で、みんな楽しくいきいきと笑顔でやりがいをもって仕事をしているとのこと。 国政ではTPP交渉も進



### 業務への使命感を誇りに今後も奮闘



小池代議員 (現業評議会)

現業職場では、業務の民間委託や賃下げなど、リス... 流れる一方、東日本大震災などを通じて、現場の最前線で専門性と経験を発揮し、住民の安全・安心を担う役割が注目されている。自治体労働者として、住民や民間の仲間との共同の取り組みを強めることが重要だ。大阪府ではこの3年間で120名が一般行政職へ転任し、定年退職による縮小整理などで「これ以上人員が減ると仕事が回ら

ない」という職場も出ている。「財政構造改革プラン案」では、一部職種を除く現業業務全てを委託化・非常勤化する方向も示されている。現業業務は単純業務ではない。多くの職場で事務職的な業務や専門外の業務まで行っている。委託化と直営との大きな違いは業務に対する使命感だと思

う。現業活動の前進に向けて奮闘する。

### 横のつながりの強化で元気の活動をすすめる



森藤代議員 (青年部)

青年部では、横のつなが

りを広げるため、クリスマスパーティー、スキー・スノーボード、フットサル大会などのとりくみを行ってきた。全国の青年が集う東京での青年大集会は、雇用問題や労働環境、若年層の貧困化をはじめ、政治や社会情勢に対する意見を出し合う場で、さまざまな働く若者の声を聞くことができ、貴重な経験になった。青年部はレクリエーション活動を通じて仲間を増やし、アクティビティな青年部をめざしたい。6月の「おきプロNEXT」は、全国の自治体の若者が1000人を超える規模で参加し、仲間を増やす貴重なチャンスであり、全力で取り組んでいきたい。

### 「住まいは人権」府営住宅の充実を



渡部代議員 (土建支部)

府内に約13万8千戸ある府営住宅を半減するという方針案が前知事時代に出された。支部は府民と一緒にこの案に反対する「府営住宅削減反対連絡会」を立ち上げ、署名や宣伝行動、学習会等を開催し奮闘してきた。その後、当局は「削減」を撤回したが、市への移管などで10年間に1万戸の削減を計画している。しかし、府内には60万世帯の住宅困窮者が存在し、府営住宅の応募も毎年高倍率

で、なかなか入居できない状況になっている。住まいは人権であり、人間らしい尊厳に相応しい生活を営むことは憲法25条に保障された最低限度の基本的権利である。セーフティネットの役割を担うことができよう府営住宅の充実を求め運動を進めていく。

### 契約職員の処遇改善など、雇用の安定をめざす



藤岡代議員 (環境農林水産総合研究所)

環境農林水産総合研究所は6年前に環境・農林・水産関係の府内の遠く離れた4か所に散らばっている試験研究機関が統合され、その後独立法化された経過があるが、そもそも寄せ集めの統合自体にも問題があった。

今後、契約職員の処遇改善・正規化など雇用の安定化が課題となっている。分からないことが多いが他の組合の取り組みなどを学んで運動を進めていきたい。

### 共同の力を広げ、賃金カット撤回を実現しよう



茨木代議員 (保健所支部)

秋季年末闘争では、支部は署名目標を上回る運動を展開した。闘争が越年となったことは当局を追い込んでいた。2008年に始まった賃金カットは5年半を超え、2・3級滞留者は1800人もいる。これは昇任昇格が改善されていないことが大きな問題である。賃金カット撤回を全力でがんばり、滞留問題解消にもつなげていきたい。小西副知事が議会で「職員にあたりまえの給与を支給したい」と発言した。参院選



大会宣言する中曾根代議員 (保健所)

### 図書館司書を計画的に採用・育成する体制を



谷山代議員 (教委支部)

や堺・岸和田市長選の結果でも「維新の会」は賞味期限切れになっている。今こそ、共同の力で橋下「維新」を追い込もう。

図書館司書の新規採用試験が9年ぶりに実施され、3名の合格者が発表された。そのうち2名が10月から中央図書館で勤務をスタート、残り1名は来年度当初、中之島図書館に配属予定となっている。図書館は団塊の世代の大量退職の時期を迎えても、指定管理者制度を含めた運営の在り方を検討するという理由で、新規採用が行われず、司書職は年度当初から大きな欠

員を抱えスタートするという異常な状況に置かれ続けてきた。支部・分会が一丸となって、長年にわたる要求し続け新規採用が実現した。中之島図書館を一つの起爆剤として今後とも司書の計画的採用、府として司書をしっかりと育成していく体制を取ることが求められていく。

### 雇用を確定させ安心して業務に打ち込める環境を



柳田代議員 (日本万国博覧会記念機構職員労働組合)

万博職員組合は役員・非常勤職員を含め66人の内、プロパー職員26名で構成されている。平成19年の政府行革で機構組織を廃止する方針が出され、本年5月には機構の廃止法案が国会で可決された。万博公園



### 府職労の一貫したとりくみが政治の流れを変える



池辺代議員 (府税支部)

6年間に渡る不当な賃金カットが続くと、今季の確定闘争では「2条例撤回」「賃金確定闘争」と2回の全職員署名を執念でやり遂げ、職場の怒りを結集した。この間、府職労が一貫して主張し、取り組んで



きたさまざまな運動が大きく反映し、当局と松井知事を包囲する状況をつくり出している。安倍首相も「景気回復のために賃上げ」と言わざるを得なくなり、大企業の内部留保批判や「賃上げで景気回復」は社会的世論へと変わっている。16年に渡って続けてきた「働くルール」の確立を求め、労働は、労働者を励まし、不払い残業定正や今日のブラック企業規制へとつながっている。公務・民間共同のたたかいが今日の局面を切り開いている。暴走する安倍政権を食い止め、憲法を守り活かす運動を自治体労働者として全力で取り組んでいきたい。

### クロスワード 12月号の解答と当選者

答え=大企業栄えて民減ぶ

### 当選者

- 藤本 明治 (設備課)
- 松葉 義尋 (障害者自立相談支援センター)
- 坂本美由紀 (四條畷保健所)
- 遠山 公美 (急性期総合医療センター)
- 安岡 政光 (富田林土木事務所)